

第 27 回八王子市地域公共交通計画検討協議会 議事要旨

日 時	平成 28 年 2 月 25 日（木） 10：00～11：50
場 所	高尾 599 ミュージアム 2 階市民ギャラリー
議 事	議題 (1)（仮称）八王子市公共交通計画 目次案 (2)バス利用状況調査（公共交通軸調査） (3)バス利用状況調査（はちバス調査） (4)地域交通事業実績報告（小津町・降宿醍醐） (5)事業者からの報告（各事業者） その他

●議題

(1)（仮称）八王子市公共交通計画 目次案

【事務局説明】

- ・平成 28 年度の策定を目指している（仮称）八王子市公共交通計画の目次構成及び各項目の内容等について、事務局より説明した。

【主な意見、質疑】

（会長）

- ・施策を実行していく実施体制等の記載はなくてよいのか。福祉交通など本協議会だけでは決定できないこともある。

⇒（事務局）

- ・個別のプロジェクトについて多数の関係機関との協議が必要である。一方で全体の進捗管理を行う組織も必要である。今後、進め方については提案していきたい。

（会長）

- ・現時点では実施体制等は言及するつもりとすることでよいのか。

⇒（事務局）

- ・その通りに考えている。

（委員）

- ・「アクセシビリティ」という表記があるが漠然としている。何に対するアクセシビリティなのか、範囲を限定しないと読み手によってとらえ方が異なるのではないのか。事務局の現時点でのイメージを教えて欲しい。

⇒（事務局）

- ・現在検討している段階だが、交通空白地域や空白地域外の居住者が、商業や医療施設への行きやすさを評価したいと考えている。

（会長）

- ・勘違いしやすいので、表現を工夫した方がよいのではないのか。

⇒（事務局）

- ・検討したい。

（会長）

- ・いただいた意見を深めていただくとして、基本的にはこの流れに沿って検討を進めていくことでした承した。

【本件については、事務局提案の内容で合意が得られた。】

(2)バス利用状況調査（公共交通軸調査）

【事務局説明】

- 平成 27 年 9 月及び 12 月に実施した、公共交通軸及び拠点等の利用実態及び各系統の利用者属性や走行阻害要因調査の結果について報告し、調査結果のまとめと今後の検討の方向性について、事務局より説明した。

【主な意見、質疑】

（委員）

- 「上り」「下り」の定義を確認したい。また、遅れ時分は時刻表からの遅れを示しているのか。結果を見ると、朝ラッシュ時のいわゆる道路が混雑している時間帯に遅れないように感じる。

⇒（事務局）

- 上りは八王子駅または最寄り駅方面としている。表現は正確性を伴うよう修正・統一していきたい。
- 遅れ時分は、バス会社のダイヤからの遅れを示している。

⇒（会長）

- 遅れることを前提としてダイヤを組んでいるのであれば、実際に区間所要時分がどのようになっているのかの方が重要な指標となる。

（委員）

- 車線数やバスレーンの有無など、現在の道路状況とあわせた評価、考察が必要ではないか。市内の全域的な渋滞には、八王子市内の交通に限らず、通過交通による影響もあると思われる。道路整備方針と合わせた検討が必要と考えられる。

⇒（会長）

- 基幹軸の現状評価に当たっては、右折レーンの有無等も含め、基礎データを整理してほしい。

（委員）

- 朝タラッシュ時において、渋滞は発生している。ほぼ毎日起きている渋滞は、ダイヤで考慮しているので、遅延が発生していないということになる。
- ①～⑤の軸については、ほぼ全路線で片側 1 車線となっている。遅れを回避するためにも、右折レーンの設置等について要望したい。

（委員）

- ひよどり山トンネル軸については、杏林大学移転後の対応となっているが、甲州街道軸についても、日野自動車の工場従業者の利用が多い中、工場移転により需要が減少することが想定される。また、グリーンヒル通り軸も、法政大学の利用が多い一方、団地住民の利用は減少傾向にある。沿線の大学や工場に左右されつつある。
- 当社の営業エリア全体では利用者数が微増する傾向にあるが、八王子市内については、利用者数が減少傾向にある。特に生産年齢人口の減少に伴い、通勤通学需要が減少している。基軸となるところを含め、今後の路線維持は厳しい状況にあると考えている。

（会長）

- 記載の「方向性」について、公共交通軸として機能していることは明らかになったが、この公共交通軸を今後どのように活用していきたいのか。また、環境変化にどう対応していこうとしているのか、検討して打ち出してほしい。

⇒（事務局）

- 各公共交通軸について、地域に応じた検討を進めていきたい。

【本件については、事務局提案の内容で合意が得られた。】

(3)バス利用状況調査（はちバス調査）

【事務局説明】

- ・平成27年12月に実施したはちバスの利用者OD調査結果と、結果に基づく課題及び方向性について事務局から説明した。

【主な意見、質疑】

（委員）

- ・はちバスの非利用者がなぜ利用しないのか、といった調査は実施しているのか。
⇒（事務局）
- ・世論調査等の大規模な調査は行っていないが、いちょう祭りで「はちバス」のPRの一環として、非利用者を含む、イベント来訪者へのアンケート調査を実施した経緯がある。

（会長）

- ・各コースの輸送断面が把握できているが、北西部コースでは、北の根東方面から檜原町で、西南部コースでは城山手で断面の変化（降車）がみられる。これらは、路線バスとの乗り継ぎがされているということか。

⇒（委員）

- ・檜原町では乗り継ぎが多いと聞いている。一方、城山手については近隣のスーパーへの買物目的が多いと思われる。

（会長）

- ・乗り継ぎなどの特徴的な利用形態については、上手な利用方法として市民に周知し、需要を開拓する方向も考えられる。
- ・このビンゴ形式の調査票は良くできている。車内でアンケートへの記入は難しい。はちバスに限らず、様々な場面で活用できればよいと思う。

（委員）

- ・調査票を見ると一部回答しにくい項目も見られる。そのような部分については工夫して欲しい。
⇒（事務局）
- ・はちバスの調査は手渡し方式で実施しており、答えにくい項目は回答しなくても良い旨を伝えた。今後は、そのような項目に対して注意書き等も加えていきたい。

（委員）

- ・資料2（公共交通軸）にも関連するが、結果が漠然としていると感じる。示している割合は100人の中の10人なのか、10人の中の1人なのか、分かりづらい。また、公共交通軸ごとに方向性をまとめる資料構成とした方がよい。

⇒（事務局）

- ・分科会では公共交通軸ごとに整理・報告していたが、今回は協議会のため抜粋した。今後、分析の中で深く掘り下げていきたい。

【本件については、事務局提案の内容で合意が得られた。】

(4)地域交通事業実績報告（小津町・降宿醍醐）

【事務局説明】

- ・平成27年度の実証運行の乗車人数について事務局から説明した。

【主な意見、質疑】

（会長）

- ・降宿醍醐の傾向を見ると、1人や2人の動向が大きく全体に影響していることがわかる。こういっ

た特徴がはっきりと見えてきたといえる。

(5)事業者からの報告（各事業者）

【京王電鉄バスからの報告】

- ・ 高尾山口駅での温泉施設のオープンに合わせて、平成 27 年 10 月 27 日より高尾山口駅と京王八王子駅とを結ぶバスの新規運行（1 日 5 便）を開始した。八王子市拠点整備部中心市街地対策課から「高尾山の観光客を中心市街地へ運び商店街活性化を図ることが出来ないか」相談があり、バス便開設に至った。高尾山に来た観光客に乗車いただくため外観、内装や降車ブザーも特別仕様になっている。中心市街地活性化の PR に車内広告を開放し、デジタルサイネージも導入した。車内の液晶画面で市内の名所をビデオで案内し、中心市街地活性化への寄与を図っている旨の報告があった。
- ・ 平成 27 年 9 月 25 日のダイヤ改正で、早朝時間帯の京王線特急・準特急が増発された。それに伴い八王子市内主要バス路線で始発便の繰り上げや増回を実施した。バス始発に乗車し京王線に乗継ぎ、新宿駅に到着出来る時刻が従前は 6 時 40 分頃だったが、ダイヤ改正後はおよそ 6 時になった旨の報告があった。

【主な意見、質疑】

（会長）

- ・ 様々な手段を活用して、高尾山観光客へアピールを実施してほしい。中心市街地活性化の経緯があるのならば、（高尾山の新設バスを）市のホームページ等で PR していく等も検討願いたい。

【西東京バスからの報告】

- ・ 平成 27 年 12 月に運行した「寝過ごし救済バス」の運行結果、バスロケーションシステムに関する機能強化、平成 28 年 3 月から高尾駅への延伸する成田空港線高速バスについて報告があった。

【主な意見、質疑】

（委員）

- ・ 西東京バスで運行開始した電源バスについて、まだ台数は少ないと思うが、利用状況を知りたい。
- ・ 電動車椅子は 1 回の充電で最長 8 時間しか利用出来ないため、バス車内で充電出来ると助かるが、電源位置を後部座席にした理由を知りたい。（後部座席だと段差があるため、後ろのドア付近でしか利用出来ず）乗降客の邪魔になってしまう。構造的な問題もあるかと思うが、電源の位置を配慮してもらえると有難い。

⇒（委員）

- ・ 電源バスはまだ今年度から導入したばかりであり、台数が少なく利用状況も同様である。今後、環境整備を進めていきたいと考えている。
- ・ ノンステップバスの構造上、なかなか利用者が後部座席に向かわないため、後部座席を中心に電源設置した経緯がある。電源の位置については、今後の検討課題とさせていただきたい。

●その他

（委員）

- ・ タクシー業界としても積極的に公共交通へ関与していきたい。降宿醍醐をはじめ公共交通空白地域へのタクシーの利便性を活かした取り組みは有効と考えており、もっと役立つ場面があるのではないかと考えている。バス事業も団地の人口減少や高齢化により、利用が伸び悩んでいる。その一方で高齢者が買物でバスを利用しづらいという意見も聞いている。ぜひ、タクシーとバスが一緒になって公共交通対策を取っていく方向が望ましい。

(委員)

- ・ 今後、乗用タクシーはUDタクシーに徐々に変わっていくと思われる。国からも補助があり、さらに平成 28 年度は都の補助も入る。これにより交通弱者も利用しやすくなっていくのではないかな。
- ・ 平成 28 年 4 月 1 日から高速道路料金の改定される予定である。基本的には発地と着地が同じ場合は同一料金となる。詳細は NEXCO 中日本の HP を参照していただきたい。中央道から首都高経由で東北道方面へ向かう場合、表示額より請求額が高くなるようであり、さらにタクシーのレシートに料金印字がされないようである。この点は留意いただきたい。

⇒ (会長)

- ・ タクシーの活用については是非検討いただきたい

(委員)

- ・ 市長が再選したとき、八王子市内に L R T の導入をという発言があった。これに係る市の中での動きはあるのか。

⇒ (事務局)

- ・ まだ具体的な検討の域に達していないところである。市長としても多摩都市モノレールに代わる交通手段として意図しているのではないかな。現在の交通政策審議会での検討においては、市としてはモノレール整備を要望している段階である。

(委員)

- ・ 1 月の分科会で P T P S の話があったが、導入に当たっては集中制御方式の信号の区間でなければ困難である。現時点では P T P S の導入には非常に時間がかかることを承知してほしい。

以上